

組織目標評価報告書（令和5年度）

23

部局名：

保健管理センター

部局長名：

岩崎良章

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	1. 感染症対策、特にパンデミック対策が刻々と変化していることを課題として、最新の情報に基づいた内容へと講義、教材、啓発資料を更新する。 2. パンデミック以外の特に若年成人で問題となる感染症の認識が十分でないことを課題として、ヒトパピローマウイルス感染症、髄膜炎菌性髄膜炎などの教育、啓発を行う。	1. 入学時オリエンテーション、教養教育講義(岡山大学入門講座、健康スポーツ科学)で教材及び資料を改訂し、特にパンデミック後の新型コロナウイルスを中心に具体的な感染防止対策及び予防接種を含む感染症教育を行った。特に医療系の学生に対しては、個別の予防接種を含む感染症対策状況の確認と医療現場に即した実用的な教育とともに、実際の予防接種を通じて実践的な指導を行った。 2. 若年成人の性感染症の実態と対策について婦人科専門医による特別講演も含めて教育するとともに、ヒトパピローマウイルス感染症に関しては実際に予防接種とアンケート調査及びその結果の報告を通じて実践的な教育を行った。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	1. 外部資金の獲得が十分でないことを課題として、科研費をはじめとする外部資金の募集情報及び応募に関する周知、獲得のための講演会等の受講の義務化、応募進捗状況の確認を行い、外部資金獲得の向上を図る。	科学研究費の応募に関して周知、情報提供を行い、関連する講演会は全員受講し、資格を有する教員全員が科学研究費に応募した。研究協力課の情報を中心に、その他の助成事業についても公募情報を毎回周知した。岡山医学振興会(医学教育)研究奨励資金を1件獲得した。
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	1. 新型コロナウイルスワクチンの特例臨時接種への対応を課題として、安全衛生部と協働して教職員の家族、近隣の大学・専門学校生、近隣で希望する企業の従業員を対象として、大学での接種を実施する。	新型コロナウイルスに対する施策の変更により、ワクチンの大学拠点接種は実施しなかった。防災に関する地域貢献の取り組みと位置付けて、近隣の住民を対象とした講演を通じて防災教育を行い好評を得た。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	1. パンデミックなど新たな業務の発生による業務の増加を課題として、業務体制及び業務分担を見直して効率化を図る。 2. 新型コロナウイルスを含むワクチン接種の大学での予防接種体制を強化する目的で、安全衛生部等と協働して接種会場を含めた接種体制を整備し運営する。	1. 感染症対策の一環としての予防接種は、インフルエンザの継続に加えて小児ウイルス感染症及びヒトパピローマウイルスに対して新たに開始することによる業務負担に対し、大学病院よりダイバーシティ職員(医師)を非常勤職員(学校医)として雇用し、ワクチン接種及び内科外来補助などの体制を整えた。 2. 安全衛生部と協働して大学会館に会場(通称さくらルーム)を確保して予防接種体制を早期に整備・運営することにより、インフルエンザワクチン接種を前年より約500名増やして1,472名に接種出来た。
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
	1. 新型コロナウイルスを含む感染症の拡大防止を目標として、感染症対策に係る新たな情報を発信して啓発を行う。 2. 新型コロナウイルスワクチンの令和5年秋開始接種を実施する。 3. 各種感染症対策として有償接種を含む新たなワクチン接種を進める。 4. メンタルヘルス対策の更なる強化を目標として、以下の取り組みを行う。 (1) ストレスチェックの更に円滑な実施を図るとともに、集団分析結果に基づく有効なメンタルヘルス対策を図る。 (2) 教職員のメンタルヘルス研修をより充実させるとともに参加数を増やす。 (3) 受入留学生及び外国人研究者が本邦において快適な生活を送ることが出来るよう、電話医療通訳サービス、精神保健福祉士(PSW)の有効利用による健康支援を行う。	1. 新型コロナウイルスの感染状況の変化及び変遷する感染対策について、オリエンテーション、教養教育講義及び大学とセンター独自のウェブサイトにおいて情報発信・啓発を行った。 2. 施策の変更により大学拠点接種は実施しなかった。 3. 新たな取り組みとして、小児ウイルス感染症及びB型肝炎ワクチンの有償接種を開始し、それぞれ延べ110名、1,002名に接種した。さらに、公費による接種期限が限られているHPVワクチンのキャッチアップ接種を大学病院で行う全国的にも先進的な取り組みとして延べ400名に接種し、被接種者のアンケート調査も実施してプレスリリースした。 4. メンタルヘルス対策として以下の取り組みを行った。 (1)、Moodleを使用してストレスチェックを円滑に実施し、集計結果は統計解析を含めてまとめた上で事業場ごとの集団分析を行い、各事業場の安全衛生委員会で分析結果と対応策について報告・提案した。 (2) 教職員のラインケア研修及びセルフケア研修を各7回行った。それぞれ65%→82%、75%→84%と参加者率はいずれも昨年度より増加した。画研修ともに「非常に有意義であった」及び「有意義であった」が約85%と好評であった。 (3) 留学生の新規相談者は15名とコロナ前より減少し、外国人研究者は0名であった。電話医療通訳サービスを有効に用いる精神保健福祉士によるメンタルヘルス支援の利用はなかった。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(**該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	
対応状況	